



きじむんの

とろ〜ちゅいむにい〜 文庫紹介編

第7回 原忠順文庫

キーワード：原忠順 鍋島直彬 鹿島藩 沖縄初期県政

はいさーい&はいたーい！ きじむんやいびーん。新学期がはじまったね〜！ 留学生のみなさん、ようこそ沖縄へ！ 留学から帰ってきた学生さん、お帰りなさい！ さて今回は、近代沖縄の初期県政にかかわった原忠順を紹介するよ！

・原忠順 (1834~1894) 略歴

原忠順 (はら ただゆき) は、肥前鹿島藩 (現：佐賀県鹿島市) の出身です。1879(明治 12)年 4 月に沖縄県少書記官に任命され、初代沖縄県令鍋島直彬 (なべしま なおよし) と共に翌 5 月に着任しました。翌年 6 月には大書記官となり、1881(明治 14)年 9 月に辞任するまでの 2 年半、鍋島県令と共に県政運営にあたりました。沖縄を去った後は 1890(明治 23)年に貴族院議員となり、1894(明治 27)年に 61 歳で亡くなりました。



原忠順



原家屋敷棟門 (鹿島市)

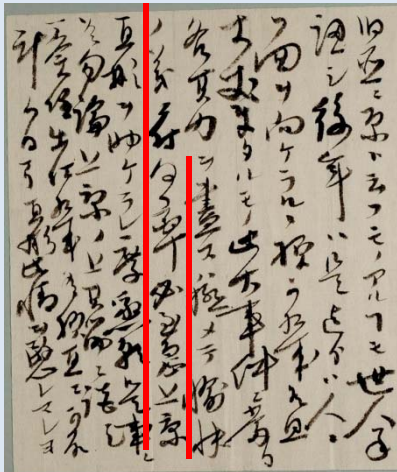
・来沖以前の原忠順

忠順は幼少のころより文学に傾倒し、1855(安政 2)年、24 歳で藩命により昌平坂学問所に入り、学問を修めました。1859(安政 6)年には藩主鍋島直彬にともない帰藩し、翌年に側頭兼侍講となりました。1866(慶応 2)年には鹿島藩家老となり、1869(明治 2)年には鹿島藩大参事に任ぜられ、藩知事鍋島を補佐しました。

・沖縄県少書記官として来沖

琉球の廃藩置県後、沖縄県を設置するにあたり、県令には華族から選出したいとの新政府の意向があったとみられ、鍋島に白羽の矢が立てられました。当時鍋島 37 歳、忠順は 46 歳でした。鍋島は常に忠順を尊敬しその教示を仰いでおり、沖縄県令に内決した後に東京から郷里にいた忠順へ送った書簡の中でも、至急上京し、自分を助けてほしいと懇願しています (左画像赤傍線部分)。

初代県令としての鍋島の県政運営は様々な要因から決して安定的なものとはいえ、就任から 2 年半後に鍋島は辞職に追い込まれることになりました。鍋島は後任の県令に忠順を推薦しますが、政府に認められず、二代目の沖縄県令は上杉茂憲 (うえずぎ もちのり) が就任しました。



上京中の鍋島から鹿島の忠順への書簡 (一部分)

・琉球大学附属図書館の原忠順文庫

忠順の死後、彼が残した資料は子孫に分割譲与されました。そのため、現在では複数の機関に分散して収蔵されています。附属図書館では、忠順の資料の一部 (291 点) を 1988(昭和 63)年度に購入し、原忠順文庫としました。このコレクションは、忠順の日記や書簡類、辞令書、典籍、写真等から構成されています。置県直後の政治・社会状況を生々しく伝える資料や、忠順が自作した漢詩や豊見城盛綱 (とみぐすく せいこう) 等の交流のあった琉球人から贈られた書や漢籍等の資料もあり、大変貴重な資料群です。

忠順の資料には家族からの書簡など、私文書も多く含まれているため、「琉球・沖縄関係貴重資料デジタルアーカイブ」での公開には時間を要します。ホームページで目録は公開しているので、ぜひ確認してみてくださいね！ (CT)

参考文献：『原忠順文庫貴重資料展』(琉球大学附属図書館、1999 年)、久布白兼武『原應候』(原忠一、1926 年)、原忠一編『有梅堂遺稿』上下 (1926 年)、星野英夫『鍋島直彬公伝』(鍋島直彬公銅像復興会、1970 年)、金城正篤『初代沖縄県令鍋島直彬関係文書』(『史料編集室紀要』No.29,2004 年)